

# 「真に患者さんのためになる 医薬品を開発して社会に貢献する」

わたしたちはこの理念のもと、積極的な努力を積み重ねています。



わたしたちは、「真に患者さんのためになる医薬品を開発して社会に貢献する」ことを研究開発理念とし、治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。

創薬の方針としては、これまで新薬創製のプロセスにおいて、脂質や酵素阻害などを重点領域と定め、各種標的に対する作用を持つ化合物をライブラリーとして蓄積し、その中から疾患や治療に結びつく薬剤を探し出す「化合物オリエント」という創薬手法で独創的な新薬を創製してきました。現在、疾患や治療に関連した化合物をより早

く高い精度で探し出す技術を導入するなど、改良を加えた新たな「化合物オリエント」による新薬創製を進めています。また、世界最先端の知見や技術を有する研究機関や大学、ベンチャー企業などとの提携を機動的に行い、創薬研究の効率を高め、新薬創製の成功確率を向上させます。現在、開発パイプラインには、抗体医薬品を含む抗がん剤、がん悪液質の治療薬、オピオイド鎮痛薬の使用に伴う難治性便秘の治療薬など、がん治療およびその支持療法の領域の新薬候補化合物をはじめ、多発性硬化症や関節リウマチの治療薬候補などがあり、早期の上市に向けて開発を進めています。なかでも、がん治療およびその支持療法の領域はアンメットニーズが高いことから、当該領域を新たな戦略分野と位置づけ、支持療法を含むがん患者さんの包括的薬物治療への貢献を目指します。

今後も国内外での世界最先端技術を活用した独創的かつ画期的な医薬品の創製に努めるなど、研究開発活動の一層の強化に取り組みます。

# 研究開発活動

## 開発品の進捗状況

国内

(平成24年5月9日現在)

製品名 (開発コード)	対象疾患	薬理作用	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
グラクティブ錠 (ONO-5435)	2型糖尿病 (速効型インスリン分泌促進薬との併用療法)	DPP-4 阻害作用	→	→	→	
グラクティブ・ メトホルミン配合錠	2型糖尿病	DPP-4阻害作用及び肝糖新生抑制 作用・インスリン抵抗性改善作用	→	→	→	
ONO-4164SC	関節リウマチ	T細胞活性化抑制作用	→	→	→	
注射用オノアクト (ONO-1101)	心機能低下例における 頻脈性不整脈	$\beta$ 1遮断作用(短時間作用型)	→	→	→	
ONO-7165	非小細胞肺がん	腫瘍抗原 MUC-1 由来 ペプチドワクチン	→	→	→	
ONO-4641	多発性硬化症	S1P 受容体作動作用	→	→	→	
ONO-3849	オピオイド鎮痛薬の使用に 伴う難治性便秘	$\mu$ オピオイド受容体拮抗作用	→	→	→	
ONO-7643	がん悪液質	グレリン様作用	→	→	→	
ONO-2745	全身麻酔	GABA A 受容体作動作用 (短時間作用型)	→	→	→	
オパールモン錠 (OP-1206)	手根管症候群	血管拡張作用	→	→	→	
ONO-4538	悪性黒色腫	完全ヒト型抗PD-1抗体	→	→	→	
ONO-7057	多発性骨髄腫	プロテアソーム阻害作用	→	→	→	
ONO-3951	過敏性腸症候群	$\kappa$ オピオイド受容体作動作用	→			
ONO-6950	気管支喘息	ロイコトリエン受容体拮抗作用	→			
ONO-7056	固形がん	Rasシグナル阻害作用	→			
ONO-5163	二次性副甲状腺機能亢進症	カルシウム受容体作動作用	→			

## 開発品の進捗状況

## 海外

(平成24年5月9日現在)

製品名 (開発コード)	対象疾患	薬理作用	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
ONO-4641	多発性硬化症	S1P受容体作動作用	→			
ONO-4538	腎細胞がん	完全ヒト型抗PD-1抗体	→			
ONO-6950	気管支喘息	ロイコトリエン受容体拮抗作用	→			
ONO-4538	C型肝炎	完全ヒト型抗PD-1抗体	→			
ONO-7746	血小板減少症	トロンボポエチン受容体作動作用	→			
ONO-2952	過敏性腸症候群	TSPO (トランスロケーター プロテイン) 拮抗作用	→			
ONO-4053	アレルギー性鼻炎	プロスタグランジン D2 受容体拮抗作用	→			
ONO-9054	緑内障・高眼圧症	プロスタグランジン受容体 (FP/EP3) 作動作用	→			
ONO-4059	B細胞リンパ腫	Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用	→			

### ※開発ステージについて

#### PI(フェーズI、臨床第I相試験)

同意を得た少数の健康な人で、安全性や体内動態の確認を行います。

#### PII(フェーズII、臨床第II相試験)

同意を得た比較的少数の患者さんで、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認します。

#### PIII(フェーズIII、臨床第III相試験)

同意を得た多数の患者さんで、既存薬などとの比較を行い、有効性と安全性について確認します。